

第34回(第24回)
社会福祉士・精神保健福祉士
国家試験解答速報
『2022年2月8日現在』

共通科目

【人体】

問題	解答欄
1	1
2	3
3	2
4	5
5	4
6	2
7	4

【心理学理論】

問題	解答欄
8	2
9	5
10	4
11	5
12	3
13	4
14	1

【社会理論】

問題	解答欄
15	2
16	1
17	5
18	2
19	4
20	3
21	3

【現代社会】

問題	解答欄
22	4
23	2

24	2
25	3
26	3
27	3・4
28	1
29	1
30	4
31	5

【地域福祉】

問題	解答欄
32	3
33	2
34	2
35	1・4
36	5
37	1
38	4
39	5
40	1・3
41	3

【福祉行財政】

問題	解答欄
42	1
43	5
44	1
45	3
46	2
47	5
48	3

【社会保障】

問題	解答欄
49	3
50	4
51	1
52	5
53	3
54	2

55	5
----	---

【障害者】

問題	解答欄
56	2
57	4
58	1
59	5
60	3
61	2
62	1

【低所得者】

問題	解答欄
63	3
64	5
65	5
66	4
67	1
68	5
69	2

【保健医療】

問題	解答欄
70	3
71	5
72	5
73	2
74	1
75	2
76	4

【権利擁護】

問題	解答欄
77	5
78	4
79	3
80	4
81	2
82	1
83	4

この解答は「ふくし合格ネット」の独自見解によるもので、事前の予告なしに変更することがあります。
問題に関するお問合せはお受けしていませんので、予めご了承下さい。

社会福祉士専門科目

【社会調査】

問題	解答欄
84	4
85	4
86	1
87	5
88	5
89	2
90	3

【相談援助の基盤】

問題	解答欄
91	4
92	1
93	3
94	5
95	4
96	1
97	2・4

【相談援助の理論】

問題	解答欄
98	1・3
99	1
100	4
101	2
102	2
103	3・5
104	2・3
105	1
106	4
107	1
108	4
109	2・3
110	1
111	5
112	5

113	2・5
114	4
115	5
116	1
117	3・4
118	1・3

【福祉サービスの組織】

問題	解答欄
119	4
120	2
121	5
122	3
123	1
124	3
125	1

【高齢者】

問題	解答欄
126	2
127	2
128	2・5
129	1・5
130	3
131	2
132	2・4
133	3
134	1
135	3

【児童や家庭】

問題	解答欄
136	2・3
137	4
138	3
139	1・5
140	1
141	2
142	5

【就労支援サービス】

問題	解答欄
143	2
144	2
145	1
146	4

【更生保護制度】

問題	解答欄
147	1
148	5
149	4
150	3

この解答は「ふくし合格ネット」の独自見解によるもので、事前の予告なしに変更することがあります。

問題に関するお問合せはお受けしていませんので、予めご了承下さい。

精神保健福祉士専門科目**【精神疾患とその治療】**

問題	解答欄
1	1
2	2
3	2
4	5
5	1
6	4・5
7	2
8	3
9	4
10	1・4

【精神保健の課題と支援】

問題	解答欄
11	3
12	2
13	3
14	3・4
15	1
16	2・4
17	5
18	2
19	3
20	5

【精神保健福祉相談援助の基盤】

問題	解答欄
21	1
22	2・5
23	4
24	4
25	5
26	5
27	5
28	3・4
29	2
30	5

31	1・3
32	1
33	3・5
34	2
35	1

【精神保健福祉の理論】

問題	解答欄
36	2
37	2
38	4
39	1
40	3
41	5
42	4
43	5
44	3
45	3
46	4
47	4
48	1
49	2・3
50	5
51	4
52	4
53	3・5
54	1
55	2
56	5
57	4
58	2
59	1
60	2

【制度とサービス】

問題	解答欄
61	3・5
62	1
63	5

64	1
65	1
66	4
67	5
68	2
69	3
70	4
71	3
72	2

【生活支援システム】

問題	解答欄
73	5
74	1
75	5
76	1
77	3
78	1
79	3
80	2・4

この解答は「ふくし合格ネット」の独自見解によるもので、事前の予告なしに変更することがあります。

問題に関するお問合せはお受けしていませんので、予めご了承下さい。

第 34 回（第 24 回） 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験講評

～第 35 回（第 25 回）に向けて～

ふくし合格ネット 海老澤 浩史

◆全体として

1) 社会福祉士・精神保健福祉士 共通科目

今回の試験で難易度が高かった科目は、33 回と同様「保健医療サービス」と「権利擁護と成年後見制度」ではないだろうか。特に「権利擁護と成年後見制度」は、参考書や過去問だけでは対応できないような問題も多く出ていたので、この科目をいかに攻略するかが、共通科目の重要なポイントになっていたと思われる。近年の出題傾向として、この 2 科目が難しくなるような傾向があるため、足切りを防ぐためにも基本事項の問題は確実に押さえておく必要があるだろう。

上記 2 つの科目以外の所については、解きやすい問題が多く、基本事項が中心であったため、全体的には 33 回試験と同様で 50 点以上取れた方が多かったのではないだろうか。見慣れない問題が一定数出題されていたことは確かであるが、それ以上に基本事項を問う問題が多い構成だったので、31 回、32 回試験というより、33 回試験に近い印象であった。

五肢二択の問題は、全部で 3 問出題され、33 回よりも 3 問減っていた。内訳は、「現代社会と福祉」1 問、「地域福祉の理論と方法」2 問であった。

今回の試験は、33 回と同じような形で基本事項を中心にまとまっていたため、やはり例年と同様で受験対策の参考書や過去問等の繰り返し学習を積み重ねてきた方は、安定して得点を取ることができたのではないだろうか。一部難しい科目もあったが、参考書や過去問を中心にした繰り返し学習が効果的だということを感じさせる問題構成であった。

2) 社会福祉士 専門科目

全体として、33 回と同じ位かそれ以上解きやすさが感じられた構成であった。その中で比較的難しいと感じられた科目は、「福祉サービスの組織と経営」と「高齢者に対する支援と介護保険制度」である。ただ、両科目とも難しい部分はあったが、基本事項で対応できる問題も多くあったので、ある程度の得点は取得できた方が多かったのではないだろうか。

また、他の 6 科目についても基本事項が中心の問題がとて多くあり、特に「相談援助の理論と方法」は、通常問題、事例問題ともに非常に解きやすい構成だった。難しい科目であり得点できなかったとしても、取りやすい科目で高得点を取得することができれば、十分合格ラインに到達できるであろう。

五肢二択の問題は、全部で 12 問出題され、33 回の 12 問と同様であった。内訳は、「相談援助の基盤と専門職」1 問、「相談援助の理論と方法」7 問、「高齢者に対する支援と介護保険制度」3 問、「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」2 問であり、例年と同じように相談援助系の科目に出題が偏っていた。

専門科目は、共通科目以上に基本事項が中心の問題が多かったので、参考書や過去問の繰り返し学習で十分な得点を取得できたであろう。33 回試験の時と重なるが、今回の試験でも基本事項を押さえることが、合格への近道だということが感じられる問題構成であった。

3) 精神保健福祉士 専門科目

「精神保健の課題と支援」や「精神保健福祉相談援助の基盤」で見慣れない用語等を問う問題が一部出題はされていたが、全体としては例年以上に基本事項を問う問題が中心であったので、社会福祉士と同様、参考書や過去問を中心に繰り返し学習をしてきた方は、テンポよく問題が解けたのではないだろうか。今回の試験でも過去問や参考書等での繰り返し学習が究めて効果的ということを再確認することができた問題構成だった。この傾向は今後も続くであろう。

科目別の所で触れているが、例年何問も出題される精神保健福祉法や障害者総合支援法等からの出題も、今回の試験でも変わらず出題されていた。過去の出題実績から大事な項目を把握して重点的に押さえておくことは、今後の試験対策としても効果的な学習方法になると思われる。

五肢二択の問題は、全部で 12 問出題。22 回、23 回試験では、16 問出題されていたので、減少する傾向がみられていた。内訳は、「精神疾患とその治療」2 問、「精神保健の課題と支援」2 問、「精神保健福祉相談援助の基盤」4 問、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」2 問、「精神保健福祉に関する制度とサービス」1 問、「精神障害者の生活支援システム」1 問であった。

◆合格ライン

1) 社会福祉士

共通科目・専門科目を通じて基本事項が中心であり、選択肢の正しい肢の部分を意図的に知らない知識にして、1 つに絞れないようにしているような問題が少なく、見慣れない知識や用語を問う問題も少ない配分だったため、33 回試験と同等レベルか少し難易度が下がったという印象であった。

また、33 回試験の時に生じた新型コロナウイルス感染症の影響による受験者数の減少という状況は、今回の試験でも十分考えられるので、状況が同じような 33 回試験を基準に考えると、今回の試験の合格ラインは 93 点～95 点の範囲であると予想する。

専門科目のみについても、33 回試験から若干難易度が下がった印象であるので、合格ラインは 41 点以上と予想する。

2) 精神保健福祉士

精神保健福祉士の専門科目は、昨年と同様で基本事項を問うような問題が多く出題されていた。23 回試験も解きやすい問題が多かったが、今回はそれよりもやや難易度は下がったという印象である。したがって、昨年（23 回）の 94 点よりも 1 点高くなり、合格ラインは 95 点以上と予想する。

専門科目のみも、23 回よりも若干難易度が下がったことを踏まえ、合格ラインは 45 点以上と予想する。

以下、科目別の傾向等を示す。

◆科目別出題傾向

1) 社会福祉士・精神保健福祉士 共通科目

事例問題

共通科目では 11 問出題。33 回は 12 問出題されたため、若干出題数が減少した。事例問題が出題された科目は、「人体の構造と機能及び疾病」1 問、「地域福祉の理論と方法」2 問、「福祉行財政と福祉計画」1 問、「社会保障」1 問、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」1 問、「低所得者に対する支援と生活保護制度」2 問、「保健医療サービス」1 問、「権利擁護と成年後見制度」2 問である。

〔各科目の特徴〕

■「人体の構造と機能及び疾病」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
老化	問題 1	○
国際障害分類（ICIDH）から 国際生活機能分類（ICF） への変遷	問題 2	△
疾病の概要	問題 3・問題 4	○・△
障害の概要	問題 5	○
精神疾患の診断・統計 マニュアル（DSM）の概要	問題 6	△
リハビリテーションの 概念と範囲	問題 7	○

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 問題 1 では老化の特徴が問われる定番の基本問題であった。高齢者関連の問題は、疾病も含めてよく取り上げられる項目である。
- ・ 問題 3、問題 4 は、頻出の疾病関連の問題である。問題 3 で感染症が出題されたが、予想していた新型コロナウイルス感染症のことは触れられていなかった。
- ・ 問題 6 は、DSM からの出題。ほぼ毎年 1 問は出題されている項目である。今回は、物質関連障害及び嗜癖性障害群の分類について問われており、多くの方が確認していない部分だったと思われる。ただ、「嗜癖性」というキーワードでギャンブル障害なのではないかと判断ができた方も一定数いたであろう。

- ・ 問題 7 はリハビリテーションの問題が出題。以前はあまり出ていなかった項目であるが、これで 3 年連続出題されたことになる。今後は重要項目の一つとして考えておいた方がよいだろう。
- ・ 全体としては、細かいことを問うような問題もあったが、比較的高得点も狙いやすい問題構成であった。7 点中 4 点以上は狙えた科目であったと思われる。

■「心理学理論と心理学的支援」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
学習・記憶・思考	問題 8・問題 9	△・○
発達概念	問題 10・問題 11	○・△
ストレスとストレッサー	問題 12	○
心理検査の概要	問題 13	○
心理療法の概要と実際	問題 14	○

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 問題 8 で学習、問題 9 で記憶に関する問題と、珍しく同じ回の試験で両方とも出題がみられていた。問題 8 は、レスポネント条件づけの事例を問う応用的な問題であり、難しく感じた方もいたと思うが、以前から同じような形式で出題されているので、過去問で確認していた方は、正答に導くことができたものと思われる。
- ・ 発達に関する問題も、問題 10 と問題 11 で 2 問も出題されており、今回の試験は出題の偏りが見られていた。
- ・ 問題 12 のストレスに関しての問題は、最近では毎年出題されているので、今後も重要な項目として捉えておくとよいであろう。この問題自体は、ホメオスタシスがわかれば容易に解ける問題であった。
- ・ 問題 14 は、毎年出題されている心理療法の問題である。出題形式も定番の形なので、解きやすい問題であった。
- ・ 全体としては、解きやすい問題が多く、高得点を取った方も多かったことが予想される。7 点中 5 点以上は取得したい。

■「社会理論と社会システム」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
社会システム	問題 15	○
経済と社会システム	問題 16	△
社会変動	問題 17	○
家族	問題 18	○
社会的行為	問題 19	○
社会的役割	問題 20	△
社会問題の捉え方	問題 21	○

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 全体的に過去にも出題されたことがあるような基本事項中心の知識が問われていたので、テンポよく問題が解けた方も多かったのではないだろうか。参考書や過去問で繰り返し学習をしていた方は、高得点が期待できる問題構成だった。
- ・ 問題 16 や問題 18 では、久しぶりに国勢調査の問題が出題されていた。令和 3 年に「令和 2 年国勢調査」の結果が公表されているので、今後も新しいデータで出題されてくることが予想できるだろう。
- ・ 近年毎年出題されていた社会的ジレンマに関する問題は出なかった。代わりに問題 19 で社会的行為、問題 20 で社会的役割に関する問題が出題されていた。
- ・ 今回の試験では、人物を問う問題も多く出題されていた。人物については他の科目も含めると非常にたくさんいるため、何をしたのかを文章で押さえるのではなく、キーワードを拾って人物名とつなげて押さえておくようにしていくと頭に入りやすいのでおススメの学習方法である。
- ・ 7 点中 5 点以上は確実に押さえておきたい科目であった。

■「現代社会と福祉」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
現代社会と福祉	問題 22・問題 26	△・○
福祉政策の現代的課題	問題 23・問題 28	○・△
福祉の原理をめぐる理論	問題 24	○
産業社会と福祉	問題 25	△
福祉政策と社会問題	問題 27	△
福祉供給過程	問題 29	○
福祉政策の論点	問題 30	×
福祉政策と教育政策	問題 31	×

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- 全体を通してみると、参考書や過去問で対応できないような問題は、問題 30 と問題 31 のみであり、**33 回試験に引き続いて過去に出題されたことがあることが中心であり、解きやすい問題構成**にはなっていた。
- 問題 27 についても、見慣れない用語等も取り上げられているが、問題の作りから正答を導けた方も多かったのではないだろうか。
- 問題 22 の「新経済社会 7 カ年計画」は、テキスト等には出ているものであるが、それ程取り上げられない所なので、戸惑われた方もいたかもしれない。
- 問題 23 のノーマライゼーション、問題 24 の福祉政策の学説、問題 26 のイギリスにおける貧困、問題 29 の福祉政策と市場に関しての問題は、容易に解くことができる問題であり、確実に押さえておきたい所である。**ノーマライゼーションは他科目でもよく出題される重要な理念なので、確実に押さえておきたい所である。**
- 上記の確実に点に結び付けたい 4 問＋もう 1 問で、10 点中 5 点以上は取得したい科目であった。

■「地域福祉の理論と方法」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
地域福祉の発展過程	問題 32	○
社会福祉法	問題 33・問題 34	○・○
地域福祉の対象	問題 34	△
行政組織と民間組織の役割と実際	問題 36	○
専門職や地域住民の役割と実際	問題 37	○
ネットワーキング	問題 38	△
地域におけるニーズの把握方法と実際	問題 39	△
地域ケアシステムの構築方法と実際	問題 40	○
地域における福祉サービスの評価方法と実際	問題 41	△

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- 問題 33 と問題 34 で**頻出事項である社会福祉法**の問題が出題された。**2020 年改正**の内容も問われており、改正点も含めて把握していた方は、容易に解けた問題であった。試験対策では、過去問をやるだけでなく、**最新の法改正も押さえておく必要がある。**
- 問題 36 では、こちらも**頻出事項である民生委員**の基本的な問題が出題された。必ず押さえないといけないような問題である。
- 同じく**頻出の社会福祉協議会**については、今回の試験では直接的な問題はなかったが、問題 32 や問題 41 の事例問題等で取り上げられていた。

- ・ 問題 38 は、用語を問うような問題であり、プラットフォームといった見慣れない用語も出ていたが、他の選択肢は押さえておく必要がある用語ばかりだったので消去法で正答に導くことができたものと思われる。
- ・ 全体としては、「現代社会と福祉」に比べて解きやすい問題が多かったので高得点を取れた方も多くいたのではないだろうか。10 点中 6 点以上は取りたい所である。

■「福祉行財政と福祉計画」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
国の役割	問題 42・問題 44	○・○
市町村の役割	問題 43	△
福祉行財政の動向	問題 44	○
福祉行政における専門職の役割	問題 46	○
福祉計画の種類	問題 47	○
福祉計画の策定方法と留意点	問題 48	△

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 問題 42、問題 43 では、厚生労働大臣や市町村の役割を通して、色々な科目で問われるようなことがまとめて出題されていた。このような科目を横断する形での出題が多く見られる科目なので、国、都道府県、市町村の役割を整理して押さえておくことが大事である。
- ・ 問題 45 は、よく出題される地方財政白書の民生費の問題であった。特に目的別歳出の割合はよく出ているので、今後も必ず押さえておきたい。
- ・ 問題 46 の行政の各専門職を横断的に問う問題もよく取り上げられる所である。他科目でも出てくる専門職なので、各専門職の違い等も含めて押さえておくとよいであろう。
- ・ 問題 47 は、各福祉計画の策定事項に関する問題。2017 年の社会福祉法改正により、市町村地域福祉計画に策定されるようになった事項を把握できているかが、この問題のカギであった。
- ・ 全体としては、非常に解きやすい問題ばかりだった印象である。この科目を苦手としている方は多いが、基本事項が押さえられていれば着実に得点を積み重ねられたのではないだろうか。7 点中 5 点以上は取れる問題であった。

■「社会保障」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
社会保障制度の発達	問題 49	○
社会保障給付費	問題 50	○
社会保険と社会扶助の概念と範囲	問題 51	○
社会保険制度の概要	問題 52・問題 54	△・○
雇用保険制度の概要	問題 53	○
年金保険制度の概要	問題 55	△

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 問題 49 は、日本の社会保障の歴史的展開の問題。老人医療費の無料化の事等は、何度も試験で取り上げられている所なので、確実に押さえておきたい問題であった。
- ・ 問題 50 は、定期的に出題されている統計である「社会保障費用統計」からの問題。今回のように社会保障給付費はよく出題されるので、主要な統計は今後も押さえておきたい。
- ・ 問題 53 は雇用保険の基本事項の問題。2020 年改正のことを知っているかが正答を導くポイントとなっていた。やはり直近の改正を押さえておくことは重要であると感じさせるような問題であった。
- ・ 問題 55 の年金に関する問題も、選択肢 5 の改正点を把握しているかどうかで正答を導けるかのポイントとなっていた。
- ・ 問題 52～問題 55 は、この科目のメインである社会保険（年金、医療、労災、雇用、介護）の制度のことを問う問題である。各社会保険を横断的かつ制度理解を図っていくことが重要である。

- ・ 全体としては、解きやすい問題が多かったので、最近の法改正のこともしっかり把握できていた方は、高得点を取得できたものと思われる。7 点中 5 点以上は取りたい科目であった。

■「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
障害者の生活需要、福祉・介護需要	問題 56	△
障害者総合支援法の概要	問題 57	○
障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際	問題 58	○
相談支援事業所の活動の実際	問題 59	○
知的障害者福祉法の概要	問題 60	○
障害者基本法の概要	問題 61	△
障害者雇用促進法の概要	問題 62	○

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 問題 56 で「生活のしづらさに関する調査」が出ていた。これで **4 年連続出題**されたことになる。今後は重要な統計として把握しておくとういだろう。
- ・ 問題 57 と問題 58 は、**この科目の中心である障害者総合支援法**関連の問題。どちらも制度の基本事項を問うような問題なので、確実に得点したい問題であった。
- ・ 問題 61 は、**障害者基本法**からの問題。**今まで行われた 3 回の改正点を中心に押さえておく**法律であるが、この問題は細かいことを問う選択肢がいくつかあったため、解きづらさを感じる方が多かったのではないだろうか。
- ・ 問題 62 は、障害者雇用促進法等からの出題。この法律は、専門科目の「就労支援サービス」で出題されることが多いが、この科目でも出題されることがあることは把握しておくとういであろう。
- ・ 全体としては、この科目も基本事項が中心であったため、参考書や過去問対策で十分に得点することができた科目だった。7 点中 5 点以上は取りたい。

■「低所得者に対する支援と生活保護制度」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
生活保護法の概要	問題 63・問題 65・問題 66	○・○・○
現業員の役割	問題 64・問題 67	○・○
生活保護制度における組織及び団体の役割	問題 68	△
生活福祉資金の概要	問題 69	○

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 例年以上に生活保護制度中心の問題構成であり、問題 63～問題 68 までで出題されていた。今後もこの傾向は変わらないことが予想されるので、**生活保護制度の理解を深めることが重要**である。
- ・ 問題 63 は、**頻出の生活保護法の原理・原則**からの問題である。毎年何らかの形で出題されている所なので、確実に点に結び付けたい項目である。
- ・ 問題 65 では、**被保護者の権利及び義務**からの基本的な問題が出ていた。この辺りはそれ程難しくないが、**出題率が高い**所なので、法律に規定されている条文を通してしっかり押さえておくとういであろう。
- ・ 問題 66 では、久しぶりに保護施設のことが出題されていた。5 つの保護施設の違いを中心に把握しておくとういだろう。
- ・ 問題 69 は、2 年連続で生活福祉資金貸付制度からの出題であった。しばらく出題されていなかった項目であるが、傾向が変化してきているのかもしれない。
- ・ 近年生活保護以外の**低所得者支援**でよく出ている**生活困窮者自立支援法**に関する問題は出題されなかった（他の科目では出題されている）。

- ・ 全体を通して、非常に解きやすい問題が多かった印象である。7 点中 6 点以上取ることができる難易度であった。

■「保健医療サービス」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
医療保険制度の概要	問題 70	○
医療費に関する政策動向	問題 71	○
医療施設の概要	問題 72・問題 73	×・△
インフォームドコンセントの意義と実際	問題 74	○
作業療法士、理学療法士、言語聴覚士の役割	問題 75	○
医療ソーシャルワーカーの役割	問題 76	△

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 問題 70 は、医療保険の制度のことを問う問題である。医療保険は、「社会保障」でも出題されるので、重要な項目として認識しておくといえよう。
- ・ 毎年出題されていた国民医療費に関する問題は、第 32 回、第 33 回と 2 年連続出題されていなかったが、今回の試験で 3 年ぶりの出題が見られた。以前は毎年出題されていたので、この統計についても重要項目として認識しておきたい。
- ・ 問題 72 は、試験では見慣れない災害拠点病院についての問題である。把握してなければ解くことは難しかっただろう。
- ・ 問題 74 は、用語を問う問題。見慣れない用語も多く出題されていたが、インフォームドコンセントをしっかり把握していれば容易に解くことはできたものと思われる。他の用語も併せて押さえられるようにしておくといえよう。
- ・ 問題 75、問題 76 は、保健医療専門職に関する問題である。特に医療ソーシャルワーカーについては、対応を問われる問題が多いので、役割を押さえておくといえよう。
- ・ 全体としては、見慣れないものが出ていたり、問題の出し方が難しいこともあったので、難しいと感じた方もいたことが予想される。7 点中 4 点以上は取得したい。

■「権利擁護と成年後見制度」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
行政法の理解	問題 77	×
成年後見の概要	問題 78・問題 79	×・○
任意後見	問題 80	△
民法の理解	問題 81	△
日常生活自立支援事業の概要	問題 82	△
市町村の役割（市町村長申立）	問題 83	○

- ・ 問題 77 は、行政行為の非常に細かいことを問う問題であったので、難問であった。
- ・ 問題 78 は、頻出の成年後見制度に関する問題であるが、試験ではあまり取り扱われない後見登記に関する問題であることと、細かいことも問われていたため、難問であった。
- ・ 問題 79 は、成年後見人になることができない者が問われていた問題。正しい選択肢は細かい点をついているが、それ以外のものが間違っていることが認識できれば容易に解くことができたものと思われる。
- ・ 問題 80 は、任意後見に関する問題。珍しく 2 年連続で出題されていた。
- ・ 問題 82 は、日常生活自立支援事業に関する問題。この事業は、「地域福祉の理論と方法」や「相談援助の基盤と専門職」等でも出題されることがあるので、重要項目として押さえておくといえよう。
- ・ 全体としては、難しい問題が多く配分されており、共通科目の中でも一際難易度が高い科目であっ

たように感じられた。全問間違えてしまった方もいたかもしれない。ただ、問題 79 と問題 83 は容易に解くことができる問題なので、このような問題を確実に得点していることが合格するためには必要なことである。7 点中 2 点以上は取得したい。

2) 社会福祉士専門科目

事例問題

専門科目では 13 問出題。33 回の 17 問より 4 問も減少した。共通科目を含めても全 24 問の出題であり、33 回（全 29 問）に比べて出題数の減少がみられていた。事例問題が出題された科目は、「相談援助の基盤と専門職」1 問、「相談援助の理論と方法」7 問、「高齢者に対する支援と介護保険制度」3 問、「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」2 問であった。

【各科目の特徴】

■「社会調査の基礎」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
社会調査における倫理、個人情報保護	問題 84	○
横断調査と縦断調査	問題 85	○
質問紙作成方法と留意点	問題 86	○
量的調査の集計と分析	問題 87・問題 88	△・○
観察法	問題 89	○
面接法	問題 90	○

- ・ 問題 84 は、社会調査における倫理と個人情報保護の複合的な問題。調査する上での留意点を問う問題であり、試験でもよく出るような形の問題であった。容易に解くことができたことと思われる。
- ・ 問題 85 と問題 86 は、試験でよく出る量的調査の方法関連からの問題。特に問題 86 の自計式調査と他計式調査に関する問題は、近年毎年出題されているので、この科目で最も重要な項目である。確実に押さえておきたい 2 問であった。
- ・ 問題 88 は、データの代表値のことが問われる応用的な問題であった。27 回の試験でも同じような問題が出題されていたので、その過去問に取り組んでいた方は、特に問題なく解答できたのではないだろうか。本試験では、5 年以上前に出題された問題と似たタイプのものが出題されることがよくあるので、5 年以上前のものについては、参考書で知識を押さえておくといよいであろう。
- ・ 問題 89 と問題 90 は、質的調査の方法を問う問題。どちらも基本事項を問う問題であり、容易に解くことができた問題であった。
- ・ 全体としては、調査の分析の難しい項目からの出題はほとんどなく、基本事項が中心であったので、参考書や過去問の繰り返し学習で十分対応できる問題構成であった。7 点中 6 点以上は取得したい。

■「相談援助の基盤と専門職」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
社会福祉士及び介護福祉士法	問題 91	○
ソーシャルワークに係る各種の定義	問題 92	○
相談援助における権利擁護の意義	問題 93	○
相談援助専門職の概念と範囲	問題 94・問題 95	×・△
ジェネラリストの視点に基づく多職種連携の意義と内容	問題 96	○
民間の施設・組織における専門職	問題 97	△

- ・ 問題 91 は、社会福祉士及び介護福祉士法と精神保健福祉士法の義務等の規定からの問題。2 つの法

律の共通している規定と違う規定を把握している方は、すぐ解くことができた問題だった。義務等に関する問題はよく出るので、しっかり把握しておきたい項目である。

- ・ 問題 92 は、ソーシャルワークの人物に関する問題。難しく説明されている選択肢もあったが、ホリスと「状況の中の人」というキーワードをくっつけて押さえていた方は、すぐにわかるような問題であった。
- ・ 問題 93 は、意思決定支援のガイドラインからの問題。意思決定支援は、社会福祉士にも重視され、求められているので、試験でも度々出題されてきている。近年作成されている様々な分野の意思決定支援ガイドラインのポイントは、今後も押さえておくといえよう。
- ・ 問題 94 は、最近の試験では見慣れない人物ばかりの問題であったため、難しく感じられた方が多かったと思われる。
- ・ 問題 97 は、生活困窮者自立相談支援機関の相談支援員の対応を問う問題。クライアントの緊急性の高いものは何かを考えることで、適切な対応がみえてくるような問題であった。
- ・ 全体としては、すぐに解ける問題がいくつかあったが、なじみのない人物や正答をはっきり絞り切れないような問題もあったため、思ったよりも得点が伸びない問題構成のように感じられた。7 点中 4 点以上は取得したい。

■「相談援助の理論と方法」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
システム理論	問題 98	△
各種実践モデルとアプローチ	問題 99・問題 100	△・○
援助関係の形成方法	問題 101・問題 116	○・○
受理面接（インテーク）	問題 102	○
相談援助のための面接技術	問題 103・問題 108	○・○
支援の実施 （インターベンション）	問題 104	○
アフターケア	問題 105・問題 106	○・○
事例分析	問題 107	○
ケースマネジメントと ケアマネジメント	問題 109	○
社会資源	問題 110	○
集団を活用した相談援助	問題 111・問題 112	○・○
スーパービジョン	問題 113	○
記録	問題 114	△
個人情報保護法	問題 115	△
ネットワーキング	問題 117	○
相談援助の実際	問題 118	○

- ・ 毎年の頻出である相談援助のモデルやアプローチの問題は、問題 99、問題 100 で出題。例年よりも問題数が控えめになっていた。
- ・ もう一つの頻出項目である相談援助の過程に関する問題は、問題 102、問題 104、問題 105 で出題。例年通りの問題数であった。どれも解きやすく、必ず得点に結びつけたい問題であった。
- ・ 問題 103、問題 108 では、面接技術の問題が出題。この項目は例年 1～2 問がコンスタントに出題されているので、今後も基本事項はしっかり押さえておきたい所である。
- ・ 問題 110 は、社会資源に関する基本的な問題。ソーシャルワーカーが活用する社会資源の基本的な知識は押さえておくべきだろう。
- ・ 問題 111、問題 112 は、グループワーク関連の問題。グループワークに関する問題は、例年 1～2 問は出題されているので、原則や展開過程を中心に把握しておく必要がある。
- ・ 問題 113 は、スーパービジョンの問題。事例形式で応用的に出題されてはいるが、3 つの機能等の基本事項を把握していれば、容易に正答は導けたであろう。この項目も毎年必ず 1 問出題されているので、基本事項を押さえておくことは必須である。
- ・ 問題 114 は、毎年 1 問は出題されている記録に関しての問題。よく出る文体に関しての問題である

が、細かい点が問われていたので、解きづらさを感じた方も多かったのではないと思われる。

- ・ 問題 116 は、バISTEKKの援助関係の原則に関する問題。この問題のように原則そのものが問われることもあるが、原則を把握しておくことは、対応が問われる事例問題等で効果を発揮するので、重要項目として把握しておきたい所である。問題自体は基本的なことが問われており、容易であった。
- ・ 事例問題は、全体的にどれも非常に解きやすく、得点源になったのではないだろうか。
- ・ 全体としては、解きやすい問題がほとんどであったので、高得点が取れた方も多かったのではないと思われる。21 点中 17 点以上が理想であるが、事例問題等でケアレスミス等が生じることもあるので、15 点以上は取りたい科目であった。

■「福祉サービスの組織と経営」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
特定非営利活動法人制度	問題 119	○
組織に関する基礎理論	問題 120	○
リーダーシップに関する基礎理論	問題 121	△
働きやすい労働環境の整備	問題 122・問題 125	○・△
経営体制	問題 123	△
適切なサービス提供体制の確保	問題 124	△

- ・ 問題 119 は、特定非営利活動法人からの出題。毎年社会福祉法人が取り上げられることが多いが、今回の試験では、社会福祉法人は会計関連の問題で取り上げられる程度であった。いずれにせよ、どちらの法人もよく出題されるので、今後も基本的な事項は把握しておきたい。
- ・ 人物関連の問題は、問題 120（組織論）と問題 121（リーダーシップ理論）で出題。問題 120 は、人物、キーワード、キーワードの内容をつなげて押さえる学習法で十分対応できる問題であった。一方、問題 121 は、見慣れない理論が複数取り上げられていたため、正答を 1 つに絞ることが難しかった方が多かったかもしれない。
- ・ 問題 123 は、社会福祉法人の会計関連の問題。細かい点が問われる難しい問題であったが、最近一度出題されたクラウドファンディングのことを知っていれば、難易度がグッと下がるような問題であった。
- ・ 問題 124 のリスクマネジメントの問題で、昨年に続いてハインリッヒの法則に関することが問われていた。この法則に関しては、今後も要注目である。
- ・ 問題 125 では、久しぶりに職場のメンタルヘルスに関する問題が出題されていた。職場のメンタルヘルスに関する問題は、日本でも社会問題の一つとなっているため、今後もよく出題されてくる項目として捉えておいてよいであろう。今回の問題のような労働安全衛生法に規定されていることを中心に押さえておくとうい。
- ・ 全体としては、細かいことを問うような問題もいくつかあったので、高得点を取る所までは難しかったかもしれない。7 点中 3 点以上は取得したい。

■「高齢者に対する支援と介護保険制度」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
高齢者の福祉需要	問題 126	△
高齢者福祉制度の発展過程	問題 127	△
介護の技法	問題 128	○
認知症ケアの実際	問題 129	○
終末期ケアの基本的考え方	問題 130	○
介護保険法における都道府県の役割	問題 131	△
介護保険法における専門職	問題 132	○
介護相談員の役割	問題 133	△
介護保険法の概要	問題 134	○
バリアフリー新法の概要	問題 135	×

- ・ 問題 126 は、高齢社会白書からの問題。白書の細かいことまでは把握できていなかったとしても、日本の現状を大まかに把握していれば正答できるような問題であった。
- ・ 問題 128 と問題 129、問題 130 は、**毎年出題されてくる介護関連**の問題。問題 128 と問題 129 は、容易に解ける問題であった。問題 130 は、見慣れない人物や用語等も取り上げられていたが、正答と考えられるアドバンス・ケア・プランニングについては、以前も試験で出題された用語なので、過去問等で確認していれば、容易に正答できた問題であった。介護関連は、例年よりもやや問題数が多い配分であった。
- ・ 問題 131 は、介護保険法での都道府県の役割が問われている問題。選択肢 4 のように細かい部分を変えて混乱させるような選択肢もあったので、引っかけってしまった方もいたことが考えられるが、是非とも正解したい問題ではあった。
- ・ 問題 131～問題 134 は、**介護保険法関連**の問題。**この科目の中心となる頻出の項目**であるため、制度理解や関わる専門職をしっかり押さえておきたい。
- ・ 問題 135 は、久しぶりに**バリアフリー法**の問題が出題された。この問題は細かいことを問う問題だったため、難しかった方が多かったと思われる。毎年出題されるような法律ではないが、2018 年と 2020 年に改正が行われていることもあるので、今後も改正点等も含めてある程度押さえておいた方がよいだろう。
- ・ 全体としては、専門科目の中では難しい部類に入る科目だった印象である。細かいことや見慣れないことを問う問題も多々見受けられた。10 点中 5 点以上は取得したい。

■「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
教育関係者との連携	問題 136	○
児童福祉法の概要	問題 137・問題 140	○・○
児童・家庭の福祉需要	問題 138	△
母子保健法の概要	問題 139	○
児童相談所の活動の実際	問題 141・問題 142	△・△

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ この科目のメインである児童福祉法関連の問題は、問題 137 と問題 140 で出題。児童相談所関係の問題も含めると、もっと出題されているので、今回の試験でも**児童福祉法が重要な項目**であった。度々改正もされているので、**改正点も含めて押さえておく**ことが大事である。
- ・ 児童福祉法以外の項目では、問題 136 の教育現場でのスクールソーシャルワーカーの支援、問題 138 の児童虐待対応の統計の問題、問題 139 の母子保健法関連の問題が出題されていた。幅広い項目から出題される傾向にある科目であるので、今後も幅広く児童関連の法律等を押さえておきたい。
- ・ 問題 141 と問題 142 は、毎年よく出題される、児童相談所の対応を問うような問題であった。児童福祉法とあわせて児童虐待防止法を押さえられていれば、正答に導くことができた問題であった。
- ・ 全体としては、問題 142 のように一時保護ガイドラインの事まで把握していないと、はっきりと正答がわからないような問題が見受けられていたが、大部分は基本事項が押さえられていれば解くことはできたものと思われる。7 点中 4 点以上は取得したい。

■「就労支援サービス」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
労働法規の概要	問題 143	○
障害者福祉施策における就労支援制度	問題 144	○
ハローワークの役割と活動の実際	問題 145	△
生活保護制度における専門職の役割	問題 146	○

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 問題 143 は、日本国憲法の勤労の規定を問う問題。「権利擁護と成年後見制度」の科目で学習していれば、容易に解くことができた問題だった。
- ・ 問題 144 は、障害者総合支援法の就労支援関連サービスの基本的な問題であった。**障害者総合支援法**は、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」の科目以外に、こちらでも出題されることがあるので、**重要項目である**ことを把握しておくといえよう。例年は、障害者総合支援法よりも**障害者雇用促進法が頻出事項**であるので、こちらの科目で出題されることが多いが、今回の試験では、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」の科目で障害者雇用促進法の問題が出題されていた。
- ・ 問題 146 は、生活保護制度における就労支援からの出題。**生活保護受給者等就労自立促進事業**のことを知っていれば、容易に解くことができた問題であった。**自立支援プログラム**とあわせて押さえておきたい所である。
- ・ 全体としては、全て基本事項が中心の問題構成であったので、参考書の学習で満点も十分狙える科目であった。4 点中 3 点以上は狙いたい。

■「更生保護制度」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
更生保護制度の概要	問題 147	○
生活環境の調整	問題 148	△
仮釈放等	問題 149	×
社会復帰調整官	問題 150	○

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 全体として、今回の試験は更生保護関連の問題が 3 問（問題 147、問題 148、問題 149）、医療観察制度関連の問題が 1 問（問題 150）の構成であった。
- ・ **例年よく出題される保護観察官・保護司**に関する問題は、今回の試験ではみられなかった。
- ・ 問題 148 の生活環境の調整や、問題 149 の仮釈放についての問題は、更生保護関連の項目なので、重要ではあるのだが、今回の試験では細かい知識が問われていたため、難しく感じられた方も多かったと思われる。
- ・ 問題 147 と問題 150 は、基本事項を押さえておけばすぐに解ける問題なので、容易に解けた方も多かったであろう。4 点中 2 点以上は取得したい。

3) 精神保健福祉士専門科目

事例問題

35 問出題。例年よりもやや多めに事例問題が出題されていたが、今後も 30～35 問位の出題数として考えておいてよいであろう。社会福祉士との違いは、**長文の事例問題が出題されてくるため、集中して文章を読まないと簡単な問題も落としてしまう可能性がある**。過去問等の実際の問題を何度も解いて慣れていた方は、特に問題なく解くことができたであろう。

〔各科目の特徴〕

■「精神疾患とその治療」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
精神医学、医療の歴史と現状	問題 1	○
精神現象の生物学的基礎	問題 2	△
代表的な疾患	問題 3・問題 4・問題 6	○・△・×
精神症状と状態像	問題 5	○
精神科薬物療法	問題 7	△
精神療法	問題 8	○
精神科治療と入院形態	問題 9	○
精神科リハビリテーション	問題 10	△

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 例年と変わらず「代表的な疾患」からの出題（問題 3、問題 4、問題 6）が中心であったが、今年の試験は出題される項目が幅広い傾向があり、7つの項目から1問ずつ出題されるという特徴があった。
- ・ 全体的には解きやすい問題が多く、一部わからないことがあっても消去法で正答を導けるような問題が主体であったので、昨年の試験に比べて高得点を取得した方も多かったのではないだろうか。
- ・ 問題 2、問題 7、問題 9 は、参考書等で学習していることではあるが、やや解きづらくしているような印象を受けた。
- ・ 問題 6 は、よく出題される統合失調症の問題であったが、細かいことが問われる難問であった。
- ・ 問題 1 は、久しぶりに「精神医学、医療の歴史と現状」から出題が見られていたが、基本事項であったため、得点に結びつきたい問題であった。
- ・ 問題 9 では、昨年に引き続いて、この科目で入院形態のことが問われていた。入院形態は、他の科目でも出題される頻出事項であり、確実に押さえておきたい問題であった。
- ・ 10 点中 5 点以上は取得したい。

■「精神保健の課題と支援」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
ストレスと精神の健康	問題 11	×
自殺予防	問題 12	△
結婚生活と精神保健	問題 13	○
育児や教育をめぐる精神保健	問題 14	○
職場内の問題を解決するための機関及び関係法規	問題 15	○
性同一性障害と精神保健	問題 16	△
災害時の精神保健に対する対策	問題 17	×
精神保健に関する法規	問題 18	△
世界の精神保健の実情	問題 19	○
WHOなどの国際機関の活動	問題 20	○

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 今回の試験は、2 問出題されるような項目はなく、幅広い知識が問われる問題構成であった。
- ・ 問題 11 の「社会的再適応評価尺度」や問題 12 のウェルテル効果は、試験では見慣れない事であったので、戸惑われた方も多かったと思うが、問題 12 については、他の選択肢はよく出題されている用語であったので、消去法で解けた方も多かったと思われる。
- ・ 問題 16 のセクシャリティについてと問題 17 の災害に関しての問題は、なじみがないことが問われている部分があり、解きづらかった方が多かったものと思われる。
- ・ 問題 18 は、精神保健福祉法の問題であったが、条文が問われていたこともあり、やや解きづらさを感じる問題であった。
- ・ 上記以外の問題 13、問題 14、問題 15、問題 19、問題 20 は、確実に点にしたい基本問題であった。これらのような参考書や過去問で学習していれば、すぐに解ける問題を確実に押さえておくことが合格するためには大事なことである。
- ・ 全体としては、他の科目よりかは見慣れない用語等が多く出題されていたので、難易度はやや高かったものと思われる。10 点中 5 点以上は取得したい。

■「精神保健福祉相談援助の基盤」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
総合的かつ包括的な 援助の意義と内容	問題 1	○
相談援助の基本的考え方	問題 2	△
ソーシャルワークに係る 各種の定義	問題 3	○
相談援助の対象及び 相談援助の基本的考え方	問題 24・問題 25・問題 27 問題 29・問題 31・問題 32 問題 35	○・○・○ ○・△・○ ×
福祉行政・関連行政機関等に おける専門職	問題 26・問題 33	○・○
精神障害者の人権擁護と 精神保健福祉士の役割	問題 28	○
多職種連携の意義と内容	問題 30・問題 34	○・○

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 問題 35 については、見慣れない事業・活動であったため、わからなかった方も多くいたと思うが、全体としては、非常に解きやすい問題がほとんどだったため、高得点がとれた方も多かったのではないと思われる。
- ・ 例年と同じように「保健、医療、福祉等の各分野における相談援助の対象及び相談援助の基本的考え方」からの出題が圧倒的に多かった。
- ・ 反対に今回の試験では、出題項目前半にある重要な精神保健福祉士法の問題や、国際ソーシャルワーカー連盟（IFS W）のソーシャルワークのグローバル定義に関する問題は、1 問も出題されなかった。今回出題されなかったことから 25 回試験では押さえておいた方がいい項目である。
- ・ 問題 23、問題 27 のような相談援助のモデルに関しての問題が出題されていた。この辺りは「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」でも出題される項目であり、最近の試験ではよく出題されるようになってきているので、今後も押さえておく基本事項として捉えておきたい。
- ・ 15 点中 12 点以上正解が理想ではあるが、最低でも 10 点は正解しておきたい科目であった。

■「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
精神障害者の人権と尊厳	問題 36	○
精神科リハビリテーションの アプローチの方法	問題 37	△
精神科専門療法	問題 38	△
多職種との協働・連携	問題 39	○
支援の実施 （インターベンション）	問題 40	○
面接を効果的に行う方法	問題 41・問題 50	○・○
個別支援の実際と事例分析	問題 42・問題 49・問題 52	○・○・○
集団を活用した支援の 実際と事例分析	問題 43・問題 59	○・○
コンサルテーションの 意義、方法、展開	問題 44	○
地域相談援助の体制	問題 45	○
精神障害者支援の理念	問題 46・問題 48	○・○
ケアマネジメントの意義と方法	問題 47	△
包括的な支援	問題 51	○
具体的事例検討	問題 53・問題 54・問題 55	△・○・△

精神科デイ・ケア等	問題 56	△
リハビリテーション計画	問題 57	○
家族支援の方法	問題 58	△
地域を基盤にした リハビリテーションの展開	問題 60	△

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 全体を通して、**精神保健福祉士としての対応を問うような問題が多く**、落ち着いて考えれば正答を導ける問題が多かった印象である。
- ・ 一部解きづらさを感じる問題等は見受けられたが、全体を通して見慣れないような知識はほとんどなく、基本事項が押さえられている方は、高得点を取ることができる問題構成であった。
- ・ 例年事例問題で、障害者総合支援法のサービスを問う問題がいくつか出題されていたが、今回の試験では、ほとんど取り扱われなかった。
- ・ 最近の傾向で相談援助の理論やモデルの問題が出題されるようになっていたが、今回の試験では「精神保健福祉相談援助の基盤」の方で出題され、こちらの科目では、出題がみられなかった。
- ・ 見慣れない用語が問われる問題や奇をてらったような変わった問題もなく、**基本事項を押さえておくことが重要である**と改めて感じさせるような問題構成であった。
- ・ 25 点中 17 点以上は正解したい所ではあるが、本番では問題数が多いとケアレスミス等も生じてしまうことも考えられるため、15 点以上は取りたい所である。

■「精神保健福祉に関する制度とサービス」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
精神保健福祉法	問題 61	○
障害者基本法と 精神障害者施策との関わり	問題 62	△
障害者総合支援法における精神 障害者の福祉サービスの実際	問題 63・問題 70・問題 72	△・○・△
医療保険制度の意義と内容	問題 64・問題 71	○・○
経済的支援に関する 制度の意義と内容	問題 65	○
更生保護制度とその担い手	問題 66	○
医療観察法の入院者・通院者 に関する処遇	問題 67	○
社会復帰調整官の役割と実際	問題 68	○
質的調査の活用と方法	問題 69	△

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ 問題 61 では、**例年よく出題される「精神保健福祉法」**からの問題であった。この科目で 2 問以上出題されることも多いが、今回は 1 問である。ただ、他科目でも幅広く出題されている法律なので、今後も重要であることは変わらないであろう。
- ・ 問題 63、問題 70、問題 72 は、頻出の障害者総合支援法関係の問題である。この法律は、共通科目の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」でも出題されるが、この科目でも何問も出題される法律である。また、他の科目でもよく取り上げられるので、**障害者総合支援法のサービスを中心に今後も確実に把握しておく必要がある**だろう。
- ・ 問題 67、問題 68 では、医療観察制度関連の問題が取り上げられていた。この項目も例年よく出題されるので、**医療観察制度の内容と関係する専門職に関してしっかり認識しておく必要があった**。
- ・ 今回の試験では、年金や医療保険といった社会保険に関する問題もよく取り上げられていた。社会保険は共通科目の「社会保障」で集中的に問われる項目であるが、この科目でも出題される所なので専門科目のみで受験する方は、復習を図っておく必要があるだろう。
- ・ 全体としては、基本事項が中心であったので、高得点が十分狙える科目であった。12 点中 7 点以上は取りたい所である。

■「精神障害者の生活支援システム」

出題された項目

出題項目（中項目）	問題	難易度※
居住支援制度の概要	問題 73・問題 76・問題 79	○・○・△
就労支援に係る専門職の役割と実際	問題 74	○
生活支援の実際	問題 75・問題 78・問題 80	×・○・○
都道府県、保健所、精神保健福祉センター等における精神保健福祉士の機能と役割	問題 77	△

※ 難易度は、○が解きやすい、△がやや解きづらい、×が難しいとしています。一つの参考にして下さい。

- ・ この科目でも障害者総合支援法関連の問題が、問題 73、問題 76、問題 79 で出題されていた。昨年の試験に引き続いて精神保健福祉士の専門科目でも障害者総合支援法は、とても出題率が高い法律だということが再確認できるような問題構成であった。
- ・ 例年就労支援関連の問題が多く出題される傾向にあるが、今回は問題 74 の 1 問のみの出題であり、代わりに居住支援関連の出題が目立っていた。
- ・ 問題 77 では、保健所や精神保健福祉センターに関する問題が出題されていた。これらの行政機関はともに試験でもよく出題されるので、役割等を十分に把握しておく必要があった。
- ・ 珍しい所では、問題 75 で諸外国における精神保健福祉に関する出題があった。この辺りは細かいことではあるが、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」で過去にも出題されたことが問われていたので、過去問対策をしっかりと行っていれば正答を導けた方もいたものと思われる。
- ・ 全体としては、一部細かい所を問うような問題もあったが、大部分は基本事項で対応できる問題であった。8 点中 5 点以上は正解したい。



ふくし合格
ネット